

# 問いを共有し対話を促す「調べ学習・発表」への取

## り組み

### —高等学校保健授業の事例—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（保健体育）

佐々木 寛太

本研究は、高校保健における「調べ学習・発表」を能動的な学習へ転換するため、「問いの導入」「少人数対話」「ロイロノートによる即時フィードバック」を統合した授業改善を行い、その効果を検証した。質の高い問いは既習知識を活性化し、理由づけ・比較・適用などの思考を促す一方、主題と結びつかない問いや難度過多の設問は集中や対話の質を下げた。少人数対話は発話機会の公平化と心理的安全性を高め、71%の生徒が学びを実感したが、抽象度の高い問いや時間不足により沈黙や共有不足が生じる課題もあった。ロイロノートは意見の可視化を通して省察を促し、74%が気づきや考えの変化を報告したが、コメントの具体性には改善の余地が残った。満足度92%という結果から、良問・対話・即時可視化を組み合わせた授業設計が、理解深化から改善意図へとつながる学習の連鎖を生むことが示された。今後は問いの最適化や外的評価指標の導入が求められる。